

2022年5月10日発行

22-19号

（http://www.jremnant.com/）

現場から（最近のニュースから）

**人の評価**

昔もいまも、多くの人が苦しむ問題は、人間関係が多いのではないでしょうか。家庭、隣近所、職場・・・人との付き合いがうまく行く人もいるでしょうが、生涯、だれともぶつからず、なにも問題なく生きることができる人は、あまりいないように思います。「あの人は、こういう人だ」と考えて、その先入観に基づいて相手に接するので、苦手な人のことばは、どんなに良いことばでも、「いやなことばに違いない」というフィルターを通したように、いやみに聞こえます。その人が、ほんとうに自分が思っているそのとおりの人なのかどうか、それを疑う人は、ほとんどいません。

歴史上の人物の評価も、時代によってかなりちがいます。織田信長について、江戸時代にはほとんど評価されていなかったという記事がありました。江戸時代には、儒教が基本的価値観を形造っていたので、信長の評価はむしろマイナスだったということです。儒教における理想的政治は、仁徳によって人々を従わせることであり、武力や策略によって人々を抑えつける政治は、良くないと考えられていたからです。ただ、その評価は、部下（明智光秀）の謀反によって死んだのは、徳がなかったからだという結果論から出ているものだろうと言われています。また、新井白石は、足利義昭将軍を利用して権力を得て、用済みになったら追放したゆえ「天性残忍」だと非難していて、信長が才能があると見込んだのは明智光秀と豊臣秀吉ですが、光秀は信長を殺し、秀吉は織田家から天下を奪ったから、結局は人を見る目もなかったと評価しているそうです。ただ、これらの評価がされた江戸時代を考えたとき、その時代を支配している徳川家を正当化して、家康を名君と持ち上げないといけない事情があったと見るべきでしょう。そのような背景では、信長はマイナス評価で酷評されるのは当然でしょう。

民間ではどうだったかというと、その当時、江戸庶民に親しまれていた芝居では、信長をあまり良く表現していなかったので、庶民が好印象を持つことができないのは当然だったようです。信長を称賛していたのは、尊皇思想を持っていた人で、天下に皇室の尊さを知らせたと功績をたたえているということです。それゆえ、幕末に尊皇攘夷運動が流行ったときに、徳川家は天皇に不忠だと非難するために、信長を持ちあげ、信長を祀る神社も創建したということです。（5月9日現代ビジネス＜あの織田信長が、江戸時代に「意外なほど不人気」だった理由＞より）

結局、人は自分にとって良いか悪いかで、歴史上の人物でさえ、ここまで評価が変わるのです。私たちが、ほかの人にどう思われるか気にするのは、当然でしょうが、それは「その人にとって良いと思えるのか、悪いのか」で出て来る基準でしかなく、私個人を正しく見て評価しているのではないことに気づくべきではないでしょうか。人への評価、自分への評価が、基準が「人」にある以上、正しい評価ではありません。あなたに対する、真実の評価はなにを基準にすべきでしょうか。そのことについてお分かちしたいのです。

救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。

それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。

神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス･キリストです。イエス･キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してくださり(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(Ⅰヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス･キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。

もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス･キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス･キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを

認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の

神様として受け入れます。私の罪を赦してくださり、私を救ってくださったことを感謝

いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・

キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください